

2021年11月27日〜12月5日、弘前市で、津軽・弘前という土地を再発見する市民参加型の芸術祭「Hirosoaki Arts Pool

私見創見 Thursday

「nation」(ヒロサキアートポリネーション)が開催された。本展は、アートを街に拓くローカル・クリエイティブ・

プロジェクト「HIROSAKI ARTS POOL」(樽澤武秀・優香の夫婦ユニット)のキュレーションによるもの。市街地の歴史的建造物や街のシンボルとなっている建物、ローカル線の車両などを会場に、彫刻、グラフィック、音楽など、さまざまなジャンルで活動するアーティストの作品を展示した。アーティストや鑑賞者を、りんごが結実する仕組みになぞらえて、植物の花粉を運び受粉させる「ポリネーター(送粉者)」と解釈。ミッソンは、アーティストたちのまなざしと、この地の歴史、文化、産業、風土を掛け合わせながら、津軽という感性を複眼的に捉えるとともに、新たな気付きや明日につながるエネルギーを私たちの心に実らせることである。

私が主宰する「現代芸術教

ヒロサキアートポリネーション

アートを街に拓く

「アートイズ」もアーティストとして呼んでいたとき、ワークショップ自体が作品になるという新しい試みに挑戦した。展示会場は、カフェ、ギャラリー、イベントスペース、

施設名は、津軽の言葉「おらんど」に由来する。参加アーティストの絵画・彫刻・食音・工芸・花・テザインなど、多種多様な表現からインスピレーションを得て、次のようなものづくりワークショップを開催した。

アートと人との関わりを考え、企画立案し実践する。人となりがりながら、さまざまな経験ができる環境を整えるという新しい仕組みを取り入れ、アートを介した社会参加のフラットホームを確立することが、地域活性化につながる適例と言えるのではないだろうか。

佐貫 巧

八戸学院大 短期大学部准教授



さぬき・たくみ 1982年、静岡市生まれ。多摩美大卒、東京芸大大学院修了。2013年から現職。14年より八戸圏域で現代芸術教室「アートイズ」を主宰し、アートを通して少しでも生きやすい世の中をつくる活動をしている。おいらせ町在住。

- 【1】りんごの星空をつくらう！モチーフ「窪田新：星降る林檎(旧一戸時計店)」
- 【2】みんなで魔法陣をつくらう！モチーフ「川口潤也：料理考」(松ノ木荘)
- 【3】石膏と花の岩木山をつくらう！モチーフ「塚本悦雄：雲と絨毯(旧一戸時計店)」相壁拓人：Noah's Ark(大鰐線車両)の回遊性と中心街での滞留性を高めるため、アートを軸にした周辺地区との連携や、街中空間の活用を狙った社会実験としての「歩いて楽しい街」づくりの一端を担っている。